

平成30年度 八尾市衛生問題対策審議会 保健所運営部会 議事録

と き 平成 30 年 10 月 3 日（水）午後 2 時～ 4 時
と ころ 八尾市保健所 2 階大会議室
出席委員 委員総数 15 名のうち 12 名
傍 聴 者 なし

1. 開会の辞

2. 委員・事務局紹介

3. 部会長・副部会長指名

部会長に武田委員、副部会長に北尾委員が就任

4. 部会長挨拶

5. 議事

(1)保健所の運営について

(2)薬事業務について

(3)動物衛生について

(4)自殺対策について

感染症発生状況について

6. 意見交換等（○：委員、●：事務局）

○市民の方からよく「保健所はどういったことをするのか」といったことを聞かれる。中でも動物関係の業務に興味を持たれている方が多いので、ぜひ地域へ情報発信するような企画を考えていただきたい。

●動物行政については、市政だよりで特集記事を掲載して以降、連日多くの問合せをいただいている状況で、非常に反響が大きい。まだ慣れない業務ではあるが、懸命に、かつ着実に取り組みを進めているところである。

○食品衛生の分野においては、我々の団体も年に 2 回「食品衛生パトロール」を実施しているところであるが、引き続き保健所の力をお借りできればと思っている。

●食品衛生についても市民や事業者への啓発が大切で、貴団体の活動を非常に心強く思っている。保健所としてもさらに力強く進めていきたいと思っている。

○災害時における避難所のあり方や、自助・公助・共助という考え方等について、保健所の立場から啓発できることについても検討いただきたい。

●避難所における公衆衛生の確保は非常に重要だと認識しており、危機管理部局と連

携しながら啓発等に取り組んでいければと思っている。

- 地域において、猫に餌を与える人がいて困っている、という相談が非常に多い。猫に関する正しい知識を持ってもらうため、地域で出前講座をしていただくことは可能か。
- できるだけ多くの人に正しい知識を持ってもらえるよう、出張所やコミュニティセンター等でご説明させていただくことも検討している。
- 今年になって災害が多発しており、避難所が開設されることも増えてきているが、避難所開設員に対し、感染症をはじめとする保健衛生に関する講習はしているのか。
- 危機管理部局と連携しながら、避難所開設員に対する指導については早急に取り組んでいきたい。
- 地域で生活する精神障がい者への対応として、これまでは、医療については府保健所が、生活については市役所が対応するなど連携が難しかったように思うが、今後、そのあたりの連携体制を確立していく上での考えを聞かせてほしい。
- 精神障がい者への対応としては、医療的、精神的及び福祉的サポートの連携が重要であるとの認識のもと、精神障がい者に対する地域包括ケアに取り組むべく、現在、障がい福祉課の担当者や地域の自治振興委員などと情報共有しながら対応しているところであり、今後さらに連携を密にしていきたいと考えている。
- 災害時における情報・データ収集は非常に大切だと思うが、通信インフラが壊滅状態になったときのことは想定しているか。また、保健所に本部が立ち上がったときの運営方法など、想定外のことが起きないぐらいあらゆるシチュエーションを想定しながら訓練しているか。次回の運営部会でお聞かせ願いたい。
- 例えば停電の場合であれば、自家発電機により半日から1日は電力確保ができる。また、サーバーダウンなどインターネット環境がだめになった場合は電話や防災行政無線等を使って主要病院の状況確認を行うほか、場合によっては保健所職員が直接現地へ赴くなど、あらゆる手段を使って情報を取りに行くことを考えている。近年、事実として想定外の災害が起きているので、そういった経験を踏まえ、取り組みをアップデートしながら取り組んでいきたい。
- 「緊急時」というのは、我々に言わせると「病気の状態」であり、予防が非常に大切。そういう意味でも、やはり啓発活動に力を入れて行ってほしい。保健所と保健センターが一体となって、普段からの備えや衛生・薬事・食品・健康等に関する正しい情報を、地域・職域あるいは専門機関を通じて伝えていくよう取り組みを進めて行ってほしい。
- 4月以降、薬事の関係では地域でのイベントや検診の際にブースを設け、ジェネリック医薬品安心使用の促進や薬物乱用防止に関する啓発を行うなど、機会をとらえては保健センターと連携した取り組みを行っている。また現在、市役所全体で健康づくりの推進や保健所との連携に取り組もうとする機運が高まっており、他部局と

の連携も進めているところである。今後も、市民に身近な市保健所として、啓発活動に力を入れていきたいと考えている。

- 熊本の歯科医師が撮影した熊本地震のビデオ映像を観て感じたのは、「最初の1週間は何もできない」ということ。被災者に対する義歯の確認や主治医への聞き取り、技工士の手配や機械・材料の調達等、あらゆる面で困難だと感じた。また避難所では、朝起きて顔を洗い、歯を磨くというごく普通のことができないというのが大変なストレスになっているという。我々としては、備蓄物資として何が必要なのか、治療がどの段階でできるのかということを確認している最中なので、またご教示いただければと思う。
- 薬事業務はこれまで藤井寺保健所の所管であったため、場所が遠く何かと不便であったが、このたび八尾市に移管され、こういった場で意見交換できるのは大変ありがたいことだと思っている。我々は現在、かかりつけ薬剤師・薬局として市民の皆さんに親しみを持ってもらえるよう、市内のコミュニティセンター4ヶ所で啓発事業を行っている。近い将来、さまざまな団体とタイアップしながら全コミュニティセンターで実施したいと考えているのでよろしくお願いしたい。